

1 ○ 凍結切片を用いた牛白血病の病理組織検査の検討

2

3

中丹家畜保健衛生所

4

○吉崎康二郎 吉良卓宏

5

【はじめに】牛白血病の診断に必要な病理組織検査は、通常、ホルマリン固定パラフィ

6

ン包埋 (FFPE) 標本の HE 染色、必要に応じて免疫染色を行っている。今回、凍結切片標本

7

を用いた本病の病理組織検査について検討した。【材料及び方法】FFPE 標本の HE 染色及

8

びウイルス検査により地方病性牛白血病と診断した 2 症例について、病理解剖時に採取し

9

た臓器やリンパ節の一部から凍結切片標本を作製 (染色まで -80°C で一時保管) し、HE 染

10

色、抗 CD3 及び抗 CD79 α 抗体を用いた免疫染色を行い、FFPE 標本のものと同様に染色性等を比較

11

検討した。【結果】HE 染色では、2 症例ともに FFPE 標本と同等に腫瘍細胞の形態学的分類

12

が可能であった。免疫染色では、1 症例は FFPE 標本と同等に CD3 陰性、CD79 α 陽性の腫瘍

13

細胞を確認したが、もう 1 症例では、FFPE 標本に比べ CD79 α の反応性の低下を確認した。

14

また、FFPE 標本では 7 日間程度要していたが凍結切片を用いた検査では 3 日間程度で判定

15

可能であった。【まとめ】牛白血病の病理組織検査に凍結切片標本を用いることにより、

16

判定時間の短縮が可能となった。2 症例のみの検討ではあるが、HE 染色では FFPE 標本と同

17

等に形態学的分類が可能であることが確認できた。免疫染色では、安定した染色性を確保

18

するため反応条件等の精査が必要なことが示唆された。今後も症例数を増やし最適な反応

19

条件等を検討していきたい。